

# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

| 1-1 建物概要 |                   | 1-2 外観 |                |
|----------|-------------------|--------|----------------|
| 建物名称     | (仮称)東大宮計画 新築工事    | 階数     | 地上3F           |
| 建設地      | さいたま市見沼区東大宮五丁目44番 | 構造     | S造             |
| 用途地域     | 商業地域、防火地域         | 平均居住人員 | 70人            |
| 地域区分     | 5地域               | 年間使用時間 | 8,760時間/年(想定値) |
| 建物用途     | 物販店               | 評価の段階  | 実施設計段階評価       |
| 竣工年      | 2018年8月 予定        | 評価の実施日 | 2017年7月26日     |
| 敷地面積     | 5,086㎡            | 作成者    | (株)長谷工コーポレーション |
| 建築面積     | 4,125㎡            | 確認日    | 2017年7月26日     |
| 延床面積     | 7,778㎡            | 確認者    | (株)長谷工コーポレーション |

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.4

**LR のスコア = 3.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

| 3 設計上の配慮事項   |   |  |
|--|---|--|
| 総合   | その他   |  |
|  | 特になし  |  |
| <b>Q1 室内環境</b><br>室内温度設定や空調容量の確保などにより、温熱環境の向上に努めている。 | <b>Q2 サービス性能</b><br>階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。<br>内装は防汚性に配慮した材料を使用するなど、維持管理に配慮している。 | <b>Q3 室外環境(敷地内)</b><br>敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。<br>中高木を植栽することにより敷地内温熱環境の向上に努めている。   |
| <b>LR1 エネルギー</b><br>LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。 | <b>LR2 資源・マテリアル</b><br>自動水栓や、擬音装置などの省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。<br>内装が乾式工法で分別性・設備との錯綜に配慮している。         | <b>LR3 敷地外環境</b><br>ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率を80%とし地球温暖化への配慮をしている。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、荷捌き車両の駐車施設を確保し、交通負荷の抑制に配慮している。 |

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される